

# 令和7年度 第2回伊豆市地域公共交通会議 議事録

日 時：令和8年1月26日（月）午後3時～  
場 所：修善寺生きいきプラザ 市民文化ホール  
出席者：委員19名（欠席3名）  
アドバザー1名、他2名、事務局3名

## 1. 開会

## 2. 会長挨拶

修善寺駅前がどうしても空き店舗が埋まらなかったが、最近は3つ埋まり、さらに駅前にゲストハウスも出来て、人口が減る中でも、非常にいい春風を感じている。その中で、どうやって市民と観光客の足を確保するのかは、全国同じ課題であるが、なかなか良い回答が見つからない。ただお金をかければいいというものでもないし、バスを走らせてもやっぱりお年寄りがなかなか乗っていただけなかった。またタクシー料金も上がり、どのようなバランスで公共交通を維持したらよいか今日的な課題として悩んでいる。

公共交通は全員が車で移動するよりも、地球環境への負荷も小さいわけだし、車を持っていない方、公共交通で来るお客様のためにも、伊豆という観光地の真ん中にある伊豆市として、これからはあらゆる対策を模索して、その中でベターなものを見出していきたいと考えている。今日は審議内容が少し濃くなっているが、よろしく願いたい。

## 3. 協議事項

### （1）市内路線バスの次年度運行について

#### <資料説明>

- ・事務局より資料について説明

- ①地域間幹線系統確保維持改善事業（国庫補助路線）（P3～P44）
- ②事業者運行路線（単独継続困難）（P45～P47）
- ③伊豆市自主運行路線（P48～P61）

#### <質疑応答>

質疑なし

#### <議決>

「市内路線バスの次年度運行について」承認

### （2）地域公共交通計画に関する第三者評価委員会への提出資料について

#### <資料説明>

事務局より提出資料（P62～P75）について説明

## ＜質疑応答＞

質疑なし

## ＜議決＞

「地域公共交通計画に関する第三者評価委員会への提出資料について」承認

## 4. その他

委員：河津町で「つなげる支援バス」という町営バスが運行しているが、知っているか。路線バスは走っているが、路線バスのない地区をスクールバスの空き時間に無料で利用できる。もう一点、自家用有償運送事業の管理であるとか、いろんな面での運行管理をしてくれるシステムがあるのを知っているか。現状がなんとかこれで回っているが、この先、ドライバー確保の問題が懸念されるため、その場合に活用するのが大事だと思う。

事務局：いろいろな事業者が、公共ライドシェアの管理等の取り組みをされていることは聞いている。

会長：河津町はスクールバスを購入し、朝と夕方を除いた昼間時にそのバスを活用している。伊豆市では路線バスを通学バスとして活用しているので、市でバスを所有しているのとは異なり、河津町と同じことはできない。東海バスにもお願いをして小学生、中学生の朝夕のバスに相当工夫してシフトしたため、高校生がかなり困っているようだ。県が県立高校の再編成を見直しており、これからさらに厳しくなる。事実上私学まで無償化され、多分伊豆市のような不便なところは、通学が便利な高校があるところに全員引っ越ししてしまうのではないかと大変強い危機感を持っている。他の市町、都道府県で何か参考事例があったら紹介いただきたい。

アドバイザー：「この高校までは公共交通で通えるように」といったリストを作って公共交通を用意している事例はある。

委員：伊豆市と河津町とではロケーションが異なっている。河津町は天城峠線が幹線として一本あり、それ以外は自主運行バスが各エリア3カ所を結んでおり、日中のダイヤ少ない時間帯にスクールバスを活用して輸送しているため、路線バスと直接競合するような形ではなく、協働するような形で運行している。伊豆市の場合は、昔から走っているバス路線を活用しているので、河津町とはロケーション的に違う。朝夕はスクールバスで、日中はそれを補完するために、一般路線として運行し、自主運行バスも含めて走らせているので、だいたい網羅されている。なお、バスの運転手不足や労働時間管理等の問題があるが、ダイヤ改正について引き続き事務局と協議・調整しながら、地域の方々になるべく迷惑にならないようにしていきたい。また、高校生の通学についても、ご相談しながら検討していきたい。

委員：伊豆は観光が盛んなので、旅館・ホテル、病院も送迎サービスをやっている。学校のスクールバスもある。国もあらゆる輸送資源を活用していこうとしている。県でも伊豆でまとめた公共交通の協議会を持っているので、その協議会の中で旅館・ホテル関係者にアンケートを実施し、どういうことができるのかを考えている。現在、調査をやってまとめている段階なので、皆様と話をしながら、どういうやり方で公共交通を維持していくか考えていきたい。

会 長：昨年 10 月に宇都宮で開催された全国都市問題会議の発表では、大学と民間事業者が AI を使った共同研究をして、将来の日本のありようを分析させたところ、東京一極集中ではなく三大都市圏と百万都市に集中していく方向らしい。効率性・生産性・分散化などを AI に提供させると、より望ましい日本の姿は地方分散だという。コストの問題だとか、住民の合意など課題もあるが、昔のようにどこの地区にも子供や高齢者が暮らしているのは無理で、ある程度の中心地へのコンパクト化が必要だと思う。そういう議論が学会でも行われている中で、さらに都市部へ集中させていくのは本当に良いのかという気もしている。伊豆市は 0 歳から中学校 3 年生までみると転出が 450 人で転入が 530 人で、子育て世代だけの転入超過であるため、せめて高校まではしっかり通学できるように、しつこくやっていきたい。次回まで参考になる意見があったら拝聴したい。

## 5. 閉会